



福岡県行政書士会 各部・委員会紹介

第9回 経理部

2026年6月発行
福岡県行政書士会
広報部

福岡県行政書士会は、行政書士の業務の改善や進歩を通じて、国民の皆様のお役に立てるよう日々各業務に取り組んでいます。こうした会の運営を支えているのが、所属する行政書士たちです。本業と並行しながら「会務」を担い、会の円滑な運営や社会貢献活動の推進に力を尽くしています。

第9回は、行政書士会の資金の流れを管理・記録し、運営の健全性を維持する組織の要でもある「経理部」取材してきました。経理部の活動とやりがい、今後の展望について話を伺ってきました。

経理部

【部長】 中原 晃
【副部長】 宮本 結花
金子 純



～ 経理部は行政書士会の運営を大局的な視点から守る「金庫番」 ～

広報部（以下「広」）：本日はお忙しい中、取材に応じてくださりましてありがとうございます。まずは皆様のお名前と経理部での担当・役割等についてお話いただけますでしょうか。

中原部長（以下「中」）：経理部長を務めております南福岡支部の中原晃です。経理部は他の部と違って何かを企画して実施していくのではなく、事務局の経理処理や経費の無駄遣いがないかをチェックしています。予算や決算の時期には様々な根拠資料に基づいて数字が正しいかを慎重に精査しています。また、事務局の質問に対応したり、支払金額の決裁をしたりしています。毎月の経理調査の際には副部長が担当している業務を統括し、執行部との調整や理事会での予算面への質問にも対応するなど役割は多岐にわたっています。

宮本副部長（以下「宮」）：副部長を務めております博多支部の宮本結花と申します。主に毎月、福岡県行政書士会（以下、県会）の経理調査をしております。事務局が入力した内容と請求書などの金額が合っているかどうかを1ヶ月分、毎月チェックしています。

金子副部長（以下「金」）：同じく副部長を担当しております南福岡支部の金子純です。私は福岡県行政書士政治連盟と福岡県行政書士事業協同組合の経理調査を毎月行っています。宮本副部長同様、事務局が入力した内容に誤りがないか証憑をもとに確認をしています。

広：それでは経理部の目的やどのようなミッションを持って活動されているのかを教えてくださいませんか。

中：経理部では毎月の経理調査を通じて「経費の最適化」を第一の目的としています。経費の最適化とは、単に支出を削減するのではなく利益の最大化を目的として必要な投資と無駄なコストを見極めることを言い、そのためのチェックを行っております。そのほかには、2023年10月からインボイス制度が始まり、事業者間でやり取りされる消費税額等が記載された適格請求書（インボイス）の発行と保存が必要になりました。また、令和7年度より福岡県行政書士会の消費税の課税方式が変更になり、消費税の確認にも比重を置く必要があり、そのチェック作業も確実に実施しております。

広：ありがとうございます。では、経理部はどれぐらいの頻度で経理調査や部会が行われているのでしょうか。



中：毎月1回、経理調査を実施し前月分のチェックを行っています。部会は何か特別に議論が必要になった時や会長からの検討事項の要望があった場合などに開催しています。インボイス導入時は、インボイス絡みで部会を開催し、対応の方向性などを議論してきました。あとは中間監査や決算監査がありますので、その際は監事の質問に対応できるように同席しております。

広：経理部は各部・委員会と予算面での連携などが必要になってくると思いますが、そのあたりはどのような形で進められているのでしょうか。

中：そうですね、毎年の予算編成時には各部・委員会から予算案が上がってきます。それを何度も精査した上で、金子副部長が予算書を作成し、正副会長会、理事会に提出する形をとっております。また、理事会の際には各部・委員会に毎月の予算執行状況の情報提供を行い、各活動の実施に向けて予算面からの連携を図っています。

また、私と宮本副部長は会費滞納対策委員会の委員も務めており、会費未納者についての情報提供を行い、同委員会のメンバーと共に未納者に対する会費納入への働きかけをどのような形で行っていくのがよいのかを検討しています。

広：では、経理部の業務に携わってよかったと感じる瞬間ややりがいなどについてお話しただけですでしょうか。

宮：会員の皆様が納めた会費が無駄に使われていないことを経理部の業務を通じて知ることができ、また適正に運営がなされていることを最前線で認識することもでき、非常にやりがいを感じています。

金：私は、経理部の中原部長や宮本副部長と知り合いになることができましたし、会長や副会長ともお話しすることもでき、県会の組織や方向性などを垣間見ることができたので経理部に参加してよかったと感じています。あと、どのような形で会員の皆様から集めた会費が無駄なく使われているのかも知ることができるので、面白いというか興味深いことが多いですね。



宮：私も会長や副会長に名前を覚えていただき、お疲れ様と言われるようになりましたし、理事の先生方からも覚えていただき、色々とお話をする機会が増えました。

広：経理部での活動で大変だったことや苦労したことのエピソードがあればお願いします。

中：そうですね、やはりインボイス導入は前からなされていましたが、課税方式が今回から変わり、一つ一つ見ていかないといけなくなりました。その様式やシステムなどの仕組みを作りあげるのはとても大変でした。

宮：私も同様にやはりインボイスへの対応ですね。入力の仕方も変わるので事務局の皆さんと一緒にこのようにやってくださいという風に一つ一つ確認しながら進めてきました。それは膨大な数なので大変でした。しかし今では皆さんだいぶ慣れて作業を進めてくださっています。

中：それから予算編成時の取りまとめは大変ですよ。最初に組む予算案が理事会での協議で何度も見直され、増額するところは増額し、削減が必要なところはしっかり削減され、少しずつ納得いただける予算案になっていきます。皆さんの協力をいただきながら予算案が決定した時は本当に苦労した分、達成感がありますよね。



広：では話題は変わりますが、登録年度が若い会員が県会の業務に携わることにに対するメリットなどもお話いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

中：県会には様々な業務に精通した方がいらっしゃいます。県会の活動を通じて多くの方と知り合うことができ、業務で悩んだ時には気軽に相談することができるようになると思います。ぜひ、県会の活動には積極的に登録年度が若いうちから携わることをおすすめします。

宮：私も、やはり横のつながりができることが大きいと思います。ぜひ、早い段階から県会の活動に積極的に参加されると良いと思います。

金：私も色々な方と話をする機会が得られたところが魅力だと思います。あとは事務局の職員の皆さんとも知り合うことができるのもいいですよ。例えば、入会当初には、職務上請求書はどうしたらいいのかや申請取次はどうしたらいいのかなど、聞きづらいですよね。

その辺を事務局の皆さんにざっくばらんに教えてもらうことができるんですよ。

広：では経理部の活動に携わりたいと考えている会員はどのようにすればよいのでしょうか。

中：昨年からはまった「副部長立候補制」に手を挙げていただくのがよいと思います。我々も予算との絡みがありますが、副部長が多ければ、毎月、交代制で経理調査を実施できるかもしれないですね。ぜひ、興味があり、ある程度簿記の知識がある方は経理部に立候補していただきたいですね。

金：私は経理部の業務はやるのが明確でいいと思います。毎月一度、県会に必ず出向いて経理調査をしなければいけませんが、経理部はやりがいがある部署なので、我こそはという方はどんどん志願していただきたいと思います。



定時総会で答弁する中原部長

広：今後、経理部はどのような課題に取り組んでいかなければならないと考えておられますか。

中：そうですね。差し当たってインボイスの形は作りました。あとは、事務局の事務負担軽減に取り組まなければならないと考えております。そこは大きな課題であり、少しずつ進めているのが現状です。

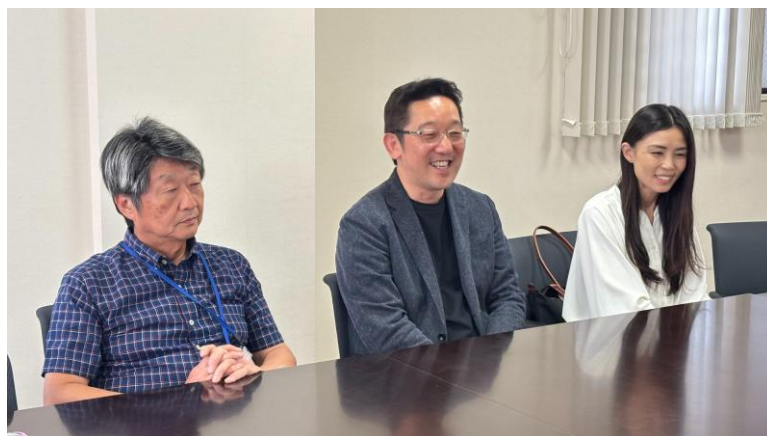
広：現在、事務局の事務負担軽減に向けて具体的な取り組みは進められているのでしょうか。

中：総務部と合同で部会を開いて、人員募集について検討・募集しましたがなかなか採用者が決まらず今後、給与体系等の見直しも検討していかなければならないところです。そこは経理部だけではなく総務部や関係部署ともしっかりと連携して取り組んでいかなければならないと考えております。

広：では、最後に経理部を代表して中原部長よりメッセージをお願いできますか。

中：経理部は、県会の資金の流れを管理し、安定的な運営がなされているかを日頃からチェックするという大きな役割を担っている部署だと思っておりますので、これからも毎月きちんと様々な規則や基準、関係書類に基づいて粛々と責任をもって業務に従事していきたいと思っております。同時に、無駄な経費がないこともチェックしていきたいと思っております。会員の皆様からの会費をお預かりして県会は運営されていますので、会費を納めてよかったと思っていただけるよう今後も取り組んでいきたいと思っております。

広：本日はお忙しい中、ありがとうございました。



金子副部長

中原部長

宮本副部長

～広報部あしがき～

経理部は毎月の経理調査を実施し、会務活動で発生する資金の動きを管理し、日々の取引のチェックから顧問税理士との決算協議までを担う県会運営には必要不可欠な部署だということが改めてわかりました。県会の運営状況を数字をもとに俯瞰し、全体的な視点から関係部署に正確な情報を提供することで適正な意思決定にも貢献されていました。また、予算編成時には各部・委員会との連携や協力が必要な場面も多く、その調整は大変だと思いますが、その成果は会員一人ひとりにとって大変意義のあるものだと思えました。今後も「経費の最適化」を最優先に取り組まれる経理部の活動に注目していきたいです。
(取材日：2026年5月19日)